

教職第1125号
平成22年9月28日

各教育局長 様

北海道教育委員会教育長

教職員等の選挙運動の禁止等について（通知）

このことについて、別添写しのとおり各道立学校長及び各市町村教育委員会教育長あて
通達・通知しましたので、適切に指示・指導をしてください。

（総務政策局総務課人事グループ）

（総務政策局教職員課人事法規グループ）

教職第1125号
平成22年9月28日

各道立学校長 様

北海道教育委員会教育長

教職員等の選挙運動の禁止等について（通達）

地方公務員は、地方公共団体の住民全体の奉仕者として公共の利益のために勤務するものであり、その職責に鑑み、政治的行為が制限されていることは周知のとおりです。

特に教育公務員については、教育の政治的中立性の確保のため、勤務時間の内外を問わず公務員としての身分を有する限り、全国どこにおいても政治的行為が制限されるなど、その扱いはより厳重なものとされ、さらに選挙運動等の政治的行為の禁止等についても公職選挙法及び教育公務員特例法に特別の定めがなされているところです。

近く、衆議院北海道5区選出議員補欠選挙が行われ、さらに来年4月には統一地方選挙が行われる予定であります。貴職におかれましては、本年5月に違反行為の具体例について周知した「教職員の政治的行為の制限について」（平成22年5月6日付け教職第208号教育長通達）や、本年7月の参議院議員選挙に向けて発出した「教職員等の選挙運動の禁止等について」（平成22年6月11日付け教職第494号教育長通達）等に留意のうえ、指導監督をお願いします。

加えて、地方公務員法、教育公務員特例法、公職選挙法等の関係法令等に違反する行為があった場合は公務員の服務義務違反として懲戒処分の対象となることや、例えば、教え子に対して教育上の地位を利用して特定の候補者に投票を依頼するよう選挙運動するなどの行為は刑事罰の対象となり、禁錮以上の刑が確定した場合は失職となることなどについても、所属職員に周知徹底を図りながら、法令等に違反する行為はもとより、教育の政治的中立性を疑わしめる行為により、学校教育に対する道民の信頼を損なうことのないよう厳正な指導監督をお願いします。

（総務政策局総務課人事グループ）

（総務政策局教職員課人事法規グループ）

教職第1125号
平成22年9月28日

各市町村教育委員会教育長様
(札幌市教育委員会教育長を除く。)

北海道教育委員会教育長

教職員等の選挙運動の禁止等について（通知）

地方公務員は、地方公共団体の住民全体の奉仕者として公共の利益のために勤務するものであり、その職責に鑑み、政治的行為が制限されていることは周知のとおりです。

特に教育公務員については、教育の政治的中立性の確保のため、勤務時間の内外を問わず公務員としての身分を有する限り、全国どこにおいても政治的行為が制限されるなど、その扱いはより厳重なものとされ、さらに選挙運動等の政治的行為の禁止等についても公職選挙法及び教育公務員特例法に特別の定めがなされているところです。

近く、衆議院北海道5区選出議員補欠選挙が行われ、さらに来年4月には統一地方選挙が行われる予定であります。貴職におかれましては、本年5月に違反行為の具体例について周知した「教職員の政治的行為の制限について」（平成22年5月6日付け教職第208号教育長通知）や、本年7月の参議院議員選挙に向けて発出した「教職員等の選挙運動の禁止等について」（平成22年6月11日付け教職第494号教育長通知）等に留意のうえ、指導監督をお願いします。

加えて、地方公務員法、教育公務員特例法、公職選挙法等の関係法令等に違反する行為があった場合は公務員の服務義務違反として懲戒処分の対象となることや、例えば、教え子に対して教育上の地位を利用して特定の候補者に投票を依頼するよう選挙運動するなどの行為は刑事罰の対象となり、禁錮以上の刑が確定した場合は失職となることなどについても、所管する学校の教職員等に周知徹底を図りながら、法令等に違反する行為はもとより、教育の政治的中立性を疑わしめる行為により、学校教育に対する道民の信頼を損なうことのないよう厳正な指導監督をお願いします。

（総務政策局教職員課人事法規グループ）

(別紙)

違反行為の具体例

違反行為の具体例	公職選挙法										人事院規則(14-7) 第6項					地公法									
	第136条の2	第137条	第138条の2	第140条	第142条	第143条	第145条	第146条	第148条	第151条の5	第225条	第230条	第1号	第3号	第5号	第6号	第7号	第8号	第9号	第10号	第11号	第13号	第33条	第35条	
① 候補者の推薦等	(1) 特定の候補者の当選を図るため、PTA等の会合の席で、その候補者の推薦を決定させること。	●	●										●					●			●				
	(2) 教員等の地位を利用して、投票の周旋勧誘(いわゆる票の割り当て等)を行うとか、あるいは、演説会の開催その他の選挙運動の企画に関与したりすること。	●	●											●					●						
	(3) 特定の候補者を支持するため、教員等の地位を利用して、その候補者の後援団体を結成したり、その団体の構成員となることを勧誘すること。	●	●											●		●	●								
② 投票の依頼又は勧誘	(1) PTA等の会合の席上で特定の候補者へ投票するよう依頼すること。	●	●										●					●			●				
	(2) 学校における児童・生徒及び保護者に対する面接指導の際、自分の支持する政党や候補者の名を挙げること。	●	●											●											
	(3) 家庭訪問の際に、特定の政党や候補者に投票するよう勧誘すること。	●	●											●					●						
	(4) 選挙運動員として、候補者の自動車などに乗り、投票を呼びかけること。																		●						
	(5) 教員等としての地位を利用して電話で投票を依頼すること。	●	●											●					●						

判決事例

■ 公職選挙法第136条の2（公務員等の地位利用による選挙運動の禁止）

○ 地位利用の範囲

公選法136条の2第1項1号違反の罪は、公務員がその管掌する職務を通じ選挙運動の対象者と密接な関連を有し、相手に対し利益又は不利益な影響を及ぼしうる状況にあることから、これを利用して有利かつ効果的な選挙運動をすることを指称し、当該公務員は固有の職務権限として処分その他の意思決定をなしうる者に限定されず、その処分権限ある上司に対し関係業務について立案、計画に参加し、意見を具申する等の方法によって密接、重要な関係において補佐する立場にある者がその職務上の地位を利用してなす場合もこれに含まれる。(S42. 5. 23 福岡高裁判決)

■ 公職選挙法第137条（教育者の地位利用の選挙運動の禁止）

○ 家庭訪問の機会における選挙運動

公選法第137条にいう「教育者が、学校の児童、生徒および学生に対する教育上の地位を利用して選挙運動をする」とは、教育者が、教育者たる地位に伴う影響力を利用して選挙運動をすることをいい、教育者が、教育上の活動として自己の担任する児童等の父兄を家庭訪問した機会に、右父兄に対し、児童等の担任者たる関係において、児童の教育上の問題に合わせて選挙運動をする場合をも包含するものと解する。(S45. 1. 28 東京高裁判決)

○ 教育者の地位利用の選挙運動の成否

教育者が担任の生徒の父兄に働きかける場合に、その働きかけを地位利用の選挙運動といい得るためには、「父兄に対しその生徒のことで何らかの利益又は不利益な影響を及ぼし得る地位にあるのを幸いに、その影響力を利用して選挙の公正と自由を阻害するおそれのある選挙運動」でなければならない。(S50. 5. 27 福岡高裁判決)

○ 公選法137条にいう「教育上の地位を利用して」の意義

公選法第137条にいう「教育上の地位を利用して」とは、教育者による選挙運動が、教育者としての地位を離れ、純然たる個人の資格としてなされるのではなく、教育者としての地位に結びつけ、それに伴う影響力又は便益を利用してなされることを指すものと解される。(S62. 4. 16 大阪高裁判決)

■ 公職選挙法第138条の2（署名運動の禁止）

○ 政党名義の物価値上げ反対の署名運動が法第138条の2に違反するとされた事例

政党名義の物価値上げ反対の署名運動であっても政党所属候補者の当選に有利に作用するという程度をこえ特定の候補者への投票により結びつくような形態のものは、法138条の2の署名運動に当たる。(S46. 10. 4 東京高裁判決)

■ 公職選挙法第142条（文書図画の頒布）

○ 法定葉書の使用方法

公選法第142条第6項により正規の表示を受けた選挙用葉書であっても、これを郵送の方法によらないで、例えば通行人に手渡すとか、人をして配達させるとかの方法によって使用するときは、同条に違反し文書を頒布したものとして、同法第243条第1項第3号の罪を構成するものと解するのが相当である。（S36. 2. 2 最高裁判決）

○ 特定少数の者に配布した場合でも頒布に当たるとした事例

無証紙のポスターの配布について、現に配布を受けた者が特定の少数人に過ぎない場合でも、その者を通じて当然若しくは成行上不特定または多人数に配布されるべき状況のもとになされた以上公選法142条、243条3号所定の頒布に該当すると解すべきである。そして〇〇会本部から各地区会長へ、地区会長から各部会長への本件無証紙ポスターの配布が、右の如く当然もしくは成行上不特定又は多人数に配布されるべき状況のもとになされたものであることは明らかであることから、それが単なる準備過程にとどまり頒布に至っていないものであるとは首肯できない。また右ポスター及び証紙は別個になっていて、未だポスターに証紙が貼られておらず、無証紙分のポスターの枚数は、単に計数上のものに過ぎないとしても、法定外文書の特定は、右の程度で足りているものというべきである。（S51. 3. 11 最高裁判決）

■ 公職選挙法第146条（文書図画の頒布又は掲示につき禁止を免れる行為の制限）

○ 公選法第146条にいう公職の候補者の氏名の意義

公職選挙法第146条にいう候補者の氏名とは、必ずしもその氏及び名が表示されていることを要するものではなく、その文書の内容、頒布の時期、場所等諸般の状況によって、候補者のだれをさすものであるかが容易に判明する程度に特定表示されているものを含む。（S40. 8. 4 広島高裁判決）

○ 陳謝ビラと文書頒布違反

個人演説会を所定の日に開催することができなかったことを市民に陳謝する旨を記載した陳謝ビラにすぎないものとしても、その記載内容自体から選挙運動に使用する文書であることが明らかな以上、その文書を頒布したときは、公選法146条の禁止にふれる。（S30. 10. 31 東京高裁判決）

○ 複数の候補の氏名を表示する文書

法146条1項において頒布が禁止されている候補者の氏名を表示する文書は、特定の候補者の氏名を表示するものであることを要し、かつ、それをもって足りると解するのが相当であり、1又は2以上の選挙区ごとにそれぞれ複数の候補者の氏名を表示する文書であっても、候補者の氏名が特定されている限り、これに含まれると解すべきである。（S49. 11. 6 最高裁判決）

■ 公職選挙法第148条（新聞紙、雑誌の報道及び評論等の自由）

○ 新聞紙の頒布方法が違法とされた事例

公選法第148条第3項の条件を具備する労働組合の機関紙といえども、同法条第2項に規定する新聞紙の販売を業とする者以外の者が特定候補者に当選を得しめる目的をもって、これを多数人に頒布したときは、同法第142条に違反する。(S34. 12. 22 東京高裁判決)

○ 通常の方法による頒布でないとされた事例

労働組合が発行する組合機関紙であって、契約購読者である非組合員に対しては一部金2円で郵送して頒布することが原則となっているものを、契約購読者でもない非組合員に対し、携帯して無料でこれを配布するのは、公選法第148条第2項にいう新聞紙を通常の方法で頒布することに該当しない。(S41. 10. 25 東京高裁判決)

■ 公職選挙法第225条（選挙の自由の妨害）

○ 選挙運動者

公選法225条1号及び3号が、選挙に関し、その各所定の者に対して暴行又は威力を加え、あるいは特殊の利害関係を利用して威迫することなどを禁止し、もって選挙人につき投票の自由を保護するとともに、広く公職の候補者等の選挙運動の自由を保護しようとする趣旨に照らせば、いまだ選挙運動を行っていないが、特定の候補者のために将来選挙運動を行う意思を有する者は、上記各号にいう「選挙運動者」に当たると解するのが相当である。(H17. 7. 6 最高裁判決)

■ 地方公務員法第36条、教育公務員特例法第18条

○ 公務員の政治的行為の制限は労働組合員としても行為に及ぶか

政治的行為が労働組合活動の一環としてなされたとしても、そのことが組合員である個々の公務員の政治的行為を正当化する理由となるものではなく、また、個々の公務員に対して禁止されている政治的行為が組合活動として行われるときは、組合員に対して統制力をもつ労働組合の組織を通じて計画的に広汎に行われ、その弊害は一層増大することとなるのであって、その禁止が解除されるべきいわれは少しもないのである。(S49. 11. 6 最高裁判決)

○ 公職選挙にあたって組合推薦の候補者の氏名を記載した組合ビラを配る行為は国家公務員法102条政治的行為の制限の規定に違反するか

裁量権のない機械的職務に従事する非管理職の公務員により、その職員団体が日常活動として行っていたいわゆる朝ビラの配布の方法で、主として同団体の日常行動として行う意識でなされたものであり、文書の内容が同団体の候補者推薦決定を記載したものであり、各被告人の配布した文書の枚数が6枚ないし14枚であり、かつ、同僚に対して配布した場合であっても、右のごとき事情は犯情に影響するにとどまり、国公法第102条1項、規則5項1号、6項13号違反による同法110条1項19号及び公選法146条1項違反による同法243条5号の各罪の違法性を失わせる事情となるものということはいえない。(S49. 11. 6 最高裁判決)

関 係 法 令 等

●地方公務員法（昭和25年12月13日法律第261号）

（欠格条項）

第16条 次の各号の一に該当する者は、条例で定める場合を除くほか、職員となり、又は競争試験若しくは選考を受けることができない。

- 一 成年被後見人又は被保佐人
- 二 禁錮（こ）以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなくなるまでの者
- 三 当該地方公共団体において懲戒免職の処分を受け、当該処分の日から二年を経過しない者
- 四 人事委員会又は公平委員会の委員の職にあつて、第五章に規定する罪を犯し刑に処せられた者
- 五 日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

（降任、免職、休職等）

第28条 職員が、左の各号の一に該当する場合においては、その意に反して、これを降任し、又は免職することができる。

- 一 勤務実績が良くない場合
 - 二 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
 - 三 前二号に規定する場合の外、その職に必要な適格性を欠く場合
 - 四 職制若しくは定数の改廃又は予算の減少により廃職又は過員を生じた場合
- 2 職員が、左の各号の一に該当する場合においては、その意に反してこれを休職することができる。
- 一 心身の故障のため、長期の休養を要する場合
 - 二 刑事事件に関し起訴された場合
- 3 職員の意に反する降任、免職、休職及び降給の手續及び効果は、法律に特別の定がある場合を除く外、条例で定めなければならない。
- 4 職員は、第十六条各号（第三号を除く。）の一に該当するに至つたときは、条例に特別の定がある場合を除く外、その職を失う。

（懲戒）

第29条 職員が次の各号の一に該当する場合においては、これに対し懲戒処分として戒告、減給、停職又は免職の処分をすることができる。

- 一 この法律若しくは第五十七条に規定する特例を定めた法律又はこれに基く条例、地方公共団体の規則若しくは地方公共団体の機関の定める規程に違反した場合
- 二 職務上の義務に違反し、又は職務を怠つた場合
- 三 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあつた場合

（服務の根本基準）

第30条 すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当つては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。

（信用失墜行為の禁止）

第33条 職員は、その職の信用を傷つけ、又は職員の職全体の不名誉となるような行為

をしてはならない。

(職務に専念する義務)

第35条 職員は、法律又は条例に特別の定がある場合を除く外、その勤務時間及び職務上の注意力のすべてをその職責遂行のために用い、当該地方公共団体がなすべき責を有する職務にのみ従事しなければならない。

(政治的行為の制限)

第36条 職員は、政党その他の政治的団体の結成に関与し、若しくはこれらの団体の役員となつてはならず、又はこれらの団体の構成員となるように、若しくはならないように勧誘運動をしてはならない。

2 職員は、特定の政党その他の政治的団体又は特定の内閣若しくは地方公共団体の執行機関を支持し、又はこれに反対する目的をもつて、あるいは公の選挙又は投票において特定の人又は事件を支持し、又はこれに反対する目的をもつて、次に掲げる政治的行為をしてはならない。ただし、当該職員の属する地方公共団体の区域（当該職員が都道府県の支庁若しくは地方事務所又は地方自治法第二百五十二条の十九第一項の指定都市の区に勤務する者であるときは、当該支庁若しくは地方事務所又は区の所管区域）外において、第一号から第三号まで及び第五号に掲げる政治的行為をすることができる。

一 公の選挙又は投票において投票をするように、又はしないように勧誘運動をすること。

二 署名運動を企画し、又は主宰する等これに積極的に関与すること。

三 寄附金その他の金品の募集に関与すること。

四 文書又は図画を地方公共団体又は特定地方独立行政法人の庁舎（特定地方独立行政法人にあつては、事務所。以下この号において同じ。）、施設等に掲示し、又は掲出させ、その他地方公共団体又は特定地方独立行政法人の庁舎、施設、資材又は資金を利用し、又は利用させること。

五 前各号に定めるものを除く外、条例で定める政治的行為

3 何人も前二項に規定する政治的行為を行うよう職員に求め、職員をそそのかし、若しくはあおつてはならず、又は職員が前二項に規定する政治的行為をなし、若しくはなさないことに対する代償若しくは報復として、任用、職務、給与その他職員の地位に関してなんらかの利益若しくは不利益を与え、与えようと企て、若しくは約束してはならない。

4 職員は、前項に規定する違法な行為に応じなかつたことの故をもつて不利益な取扱を受けることはない。

5 本条の規定は、職員の政治的中立性を保障することにより、地方公共団体の行政及び特定地方独立行政法人の業務の公正な運営を確保するとともに職員の利益を保護することを目的とするものであるという趣旨において解釈され、及び運用されなければならない。

●教育公務員特例法（昭和24年1月12日号外法律第1号）

(公立学校の教育公務員の政治的行為の制限)

第18条 公立学校の教育公務員の政治的行為の制限については、当分の間、地方公務員法第三十六条の規定にかかわらず、国家公務員の例による。

2 前項の規定は、政治的行為の制限に違反した者の処罰につき国家公務員法（昭和二十

二年法律第二百十号) 第一百条第一項の例による趣旨を含むものと解してはならない。

●国家公務員法（昭和22年10月21日法律第120号）

（政治的行為の制限）

第102条 職員は、政党又は政治的目的のために、寄附金その他の利益を求め、若しくは受領し、又は何らの方法を以てするを問わず、これらの行為に関与し、あるいは選挙権の行使を除く外、人事院規則で定める政治的行為をしてはならない。

- 1 職員は、公選による公職の候補者となることができない。
- 2 職員は、政党その他の政治的団体の役員、政治的顧問、その他これらと同様な役割をもつ構成員となることができない。

第110条 次の各号のいずれかに該当する者は、三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

一 ～ 十八 略

十九 第二百条第一項に規定する政治的行為の制限に違反した者

二十 略

- 2 前項第八号に該当する者の收受した金銭その他の利益は、これを没収する。その全部又は一部を没収することができないときは、その価額を追徴する。

●人事院規則 14—7（政治的行為）（昭和24年9月19日人事院規則14—7）

人事院は、国家公務員法 に基き、政治的行為に関し次の人事院規則を制定する。

（適用の範囲）

- 1 法及び規則中政治的行為の禁止又は制限に関する規定は、臨時的任用として勤務する者、条件付任用期間の者、休暇、休職又は停職中の者及びその他理由のいかんを問わず一時的に勤務しない者をも含むすべての一般職に属する職員に適用する。ただし、顧問、参与、委員その他人事院の指定するこれらと同様な諮問的な非常勤の職員（法第八十一条の五第一項に規定する短時間勤務の官職を占める職員を除く。）が他の法令に規定する禁止又は制限に触れることなしにする行為には適用しない。
- 2 法又は規則によつて禁止又は制限される職員の政治的行為は、すべて、職員が、公然又は内密に、職員以外の者と共同して行う場合においても、禁止又は制限される。
- 3 法又は規則によつて職員が自ら行うことを禁止又は制限される政治的行為は、すべて、職員が自ら選んだ又は自己の管理に属する代理人、使用人その他の者を通じて間接に行う場合においても、禁止又は制限される。
- 4 法又は規則によつて禁止又は制限される職員の政治的行為は、第六項第十六号に定めるものを除いては、職員が勤務時間外において行う場合においても、適用される。

（政治的目的の定義）

- 5 法及び規則中政治的目的とは、次に掲げるものをいう。政治的目的をもつてなされる行為であつても、第六項に定める政治的行為に含まれない限り、法第二百条第一項の規定に違反するものではない。

- 一 規則一四一五に定める公選による公職の選挙において、特定の候補者を支持し又はこれに反対すること。
- 二 最高裁判所の裁判官の任命に関する国民審査に際し、特定の裁判官を支持し又はこれに反対すること。
- 三 特定の政党その他の政治的団体を支持し又はこれに反対すること。
- 四 特定の内閣を支持し又はこれに反対すること。
- 五 政治の方向に影響を与える意図で特定の政策を主張し又はこれに反対すること。
- 六 国の機関又は公の機関において決定した政策（法令、規則又は条例に包含されたものを含む。）の実施を妨害すること。
- 七 地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）に基く地方公共団体の条例の制定若しくは改廃又は事務監査の請求に関する署名を成立させ又は成立させないこと。
- 八 地方自治法に基く地方公共団体の議会の解散又は法律に基く公務員の解職の請求に関する署名を成立させ若しくは成立させず又はこれらの請求に基く解散若しくは解職に賛成し若しくは反対すること。

（政治的行為の定義）

- 6 法第二百条第一項の規定する政治的行為とは、次に掲げるものをいう。
 - 一 政治的目的のために職名、職権又はその他の公私の影響力を利用すること。
 - 二 政治的目的のために寄附金その他の利益を提供し又は提供せずその他政治的目的をもつなんらかの行為をなし又はなさないことに対する代償又は報復として、任用、職務、給与その他職員の地位に関してなんらかの利益を得若しくは得ようと企て又は得させようとする事あるいは不利益を与え、与えようと企て又は与えようとおびやかすこと。
 - 三 政治的目的をもつて、賦課金、寄附金、会費又はその他の金品を求め若しくは受領し又はなんらの方法をもつてするを問わずこれらの行為に関与すること。
 - 四 政治的目的をもつて、前号に定める金品を国家公務員に与え又は支払うこと。
 - 五 政党その他の政治的団体の結成を企画し、結成に参加し若しくはこれらの行為を援助し又はそれらの団体の役員、政治的顧問その他これらと同様な役割をもつ構成員となること。
 - 六 特定の政党その他の政治的団体の構成員となるように又はならないように勧誘運動をすること。
 - 七 政党その他の政治的団体の機関紙たる新聞その他の刊行物を発行し、編集し、配布し又はこれらの行為を援助すること。
 - 八 政治的目的をもつて、第五項第一号に定める選挙、同項第二号に定める国民審査の投票又は同項第八号に定める解散若しくは解職の投票において、投票するように又はしないように勧誘運動をすること。
 - 九 政治的目的のために署名運動を企画し、主宰し又は指導しその他これに積極的に参加すること。
 - 十 政治的目的をもつて、多数の人の行進その他の示威運動を企画し、組織し若しくは指導し又はこれらの行為を援助すること。
 - 十一 集会その他多数の人に接し得る場所で又は拡声器、ラジオその他の手段を利用して、公に政治的目的を有する意見を述べること。
 - 十二 政治的目的を有する文書又は図画を国又は特定独立行政法人の庁舎（特定独立行政法人にあつては、事務所。以下同じ。）、施設等に掲示し又は掲示させその他政治的目的のために国又は特定独立行政法人の庁舎、施設、資材又は資金を利用し又は利用させること。

- 十三 政治的目的を有する署名又は無署名の文書、図画、音盤又は形象を発行し、回覧に供し、掲示し若しくは配布し又は多数の人に対して朗読し若しくは聴取させ、あるいはこれらの用に供するために著作し又は編集すること。
- 十四 政治的目的を有する演劇を演出し若しくは主宰し又はこれらの行為を援助すること。
- 十五 政治的目的をもって、政治上の主義主張又は政党その他の政治的団体の表示に用いられる旗、腕章、記章、えり章、服飾その他これらに類するものを製作し又は配布すること。
- 十六 政治的目的をもって、勤務時間中において、前号に掲げるものを着用し又は表示すること。
- 十七 なんらの名義又は形式をもってするを問わず、前各号の禁止又は制限を免れる行為をすること。
- 7 この規則のいかなる規定も、職員が本来の職務を遂行するため当然行うべき行為を禁止又は制限するものではない。
- 8 各省各庁の長及び特定独立行政法人の長は、法又は規則に定める政治的行為の禁止又は制限に違反する行為又は事実があつたことを知つたときは、直ちに人事院に通知するとともに、違反行為の防止又は矯正のために適切な措置をとらなければならない。

●公職選挙法（昭和25年4月15日号外法律第100号）

（公務員等の地位利用による選挙運動の禁止）

- 第136条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、その地位を利用して選挙運動をすることができない。
- 一 国若しくは地方公共団体の公務員又は特定独立行政法人若しくは特定地方独立行政法人の役員若しくは職員
- 二 沖縄振興開発金融公庫の役員又は職員（以下「公庫の役職員」という。）
- 2 前項各号に掲げる者が公職の候補者若しくは公職の候補者となろうとする者（公職にある者を含む。）を推薦し、支持し、若しくはこれに反対する目的をもってする次の各号に掲げる行為又は公職の候補者若しくは公職の候補者となろうとする者（公職にある者を含む。）である同項各号に掲げる者が公職の候補者として推薦され、若しくは支持される目的をもってする次の各号に掲げる行為は、同項に規定する禁止行為に該当するものとみなす。
- 一 その地位を利用して、公職の候補者の推薦に関与し、若しくは関与することを援助し、又は他人をしてこれらの行為をさせること。
- 二 その地位を利用して、投票の周旋勧誘、演説会の開催その他の選挙運動の企画に関与し、その企画の実施について指示し、若しくは指導し、又は他人をしてこれらの行為をさせること。
- 三 その地位を利用して、第九十九条の五第一項に規定する後援団体を結成し、その結成の準備に関与し、同項に規定する後援団体の構成員となることを勧誘し、若しくはこれらの行為を援助し、又は他人をしてこれらの行為をさせること。
- 四 その地位を利用して、新聞その他の刊行物を発行し、文書図画を掲示し、若しくは頒布し、若しくはこれらの行為を援助し、又は他人をしてこれらの行為をさせること。
- 五 公職の候補者又は公職の候補者となろうとする者（公職にある者を含む。）を推薦し、支持し、若しくはこれに反対することを申しいで、又は約束した者に対し、その代償として、その職務の執行に当たり、当該申しいで、又は約束した者に係る利益を

供与し、又は供与することを約束すること。

(教育者の地位利用の選挙運動の禁止)

第137条 教育者（学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に規定する学校の長及び教員をいう。）は、学校の児童、生徒及び学生に対する教育上の地位を利用して選挙運動をすることができない。

(署名運動の禁止)

第138条の2 何人も、選挙に関し、投票を得若しくは得しめ又は得しめない目的をもって選挙人に対し署名運動をすることができない。

(氣勢を張る行為の禁止)

第140条 何人も、選挙運動のため、自動車を連ね又は隊伍を組んで往来する等によって氣勢を張る行為をすることができない。

(文書図画の頒布)

第142条 衆議院（比例代表選出）議員の選挙以外の選挙においては、選挙運動のために使用する文書図画は、次の各号に規定する通常葉書並びに第一号から第三号まで及び第五号から第七号までに規定するビラのほかは、頒布することができない。この場合において、ビラについては、散布することができない。

一 衆議院（小選挙区選出）議員の選挙にあつては、候補者一人について、通常葉書 三万五千枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 七万枚

一の二 参議院（比例代表選出）議員の選挙にあつては、公職の候補者たる参議院名簿登載者一人について、通常葉書 十五万枚、中央選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 二十五万枚

二 参議院（選挙区選出）議員の選挙にあつては、候補者一人について、当該都道府県の区域内の衆議院（小選挙区選出）議員の選挙区の数が一である場合には、通常葉書 三万五千枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 十万枚、当該都道府県の区域内の衆議院（小選挙区選出）議員の選挙区の数が一を超える場合には、その一を増すごとに、通常葉書 二千五百枚を三万五千枚に加えた数、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 一万五千枚を十万枚に加えた数（その数が三十万枚を超える場合には、三十万枚）

三 都道府県知事の選挙にあつては、候補者一人について、当該都道府県の区域内の衆議院（小選挙区選出）議員の選挙区の数が一である場合には、通常葉書 三万五千枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 十万枚、当該都道府県の区域内の衆議院（小選挙区選出）議員の選挙区の数が一を超える場合には、その一を増すごとに、通常葉書 二千五百枚を三万五千枚に加えた数、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 一万五千枚を十万枚に加えた数（その数が三十万枚を超える場合には、三十万枚）

四 都道府県の議会の議員の選挙にあつては、候補者一人について、通常葉書 八千枚

五 指定都市の選挙にあつては、長の選挙の場合には、候補者一人について、通常葉書 三万五千枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 七万枚、議会の議員の選挙の場合には、候補者一人について、通常葉書 四千枚

六 指定都市以外の市の選挙にあつては、長の選挙の場合には、候補者一人について、通常葉書 八千枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 一万六千枚、議会の議員の選挙の場合には、候補者一人について、通

常葉書 二千枚

- 七 町村の選挙にあつては、長の選挙の場合には、候補者一人について、通常葉書 二千五百枚、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラ 五千枚、議会の議員の選挙の場合には、候補者一人について、通常葉書 八百枚
- 2 前項の規定にかかわらず、衆議院（小選挙区選出）議員の選挙においては、候補者届出政党は、その届け出た候補者に係る選挙区を包括する都道府県ごとに、二万枚に当該都道府県における当該候補者届出政党の届出候補者の数を乗じて得た数以内の通常葉書及び四万枚に当該都道府県における当該候補者届出政党の届出候補者の数を乗じて得た数以内のビラを、選挙運動のために頒布（散布を除く。）することができる。ただし、ビラについては、その届け出た候補者に係る選挙区ごとに四万枚以内で頒布するほかは、頒布することができない。
- 3 衆議院（比例代表選出）議員の選挙においては、衆議院名簿届出政党等は、その届け出た衆議院名簿に係る選挙区ごとに、中央選挙管理委員会に届け出た二種類以内のビラを、選挙運動のために頒布（散布を除く。）することができる。
- 4 衆議院（比例代表選出）議員の選挙においては、選挙運動のために使用する文書図画は、前項の規定により衆議院名簿届出政党等が頒布することができるビラのほかは、頒布することができない。
- 5 第一項の通常葉書は無料とし、第二項の通常葉書は有料とし、政令で定めるところにより、郵便事業株式会社において選挙用である旨の表示をしたものでなければならない。
- 6 第一項第一号から第三号まで及び第五号から第七号まで、第二項並びに第三項のビラは、新聞折込みその他政令で定める方法によらなければ、頒布することができない。
- 7 第一項第一号から第三号まで及び第五号から第七号まで並びに第二項のビラは、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会（参議院比例代表選出議員の選挙については、中央選挙管理委員会。以下この項において同じ。）の定めるところにより、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会の交付する証紙をはらなければ頒布することができない。この場合において、第二項のビラについて当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会の交付する証紙は、当該選挙の選挙区ごとに区分しなければならない。
- 8 第一項第一号から第三号まで及び第五号から第七号までのビラは長さ二十九・七センチメートル、幅二十一センチメートルを、第二項のビラは長さ四十二センチメートル、幅二十九・七センチメートルを、超えてはならない。
- 9 第一項第一号から第三号まで及び第五号から第七号まで、第二項並びに第三項のビラには、その表面に頒布責任者及び印刷者の氏名（法人にあつては名称）及び住所を記載しなければならない。この場合において、第一項第一号の二のビラにあつては当該参議院名簿登載者に係る参議院名簿届出政党等の名称及び同号のビラである旨を表示する記号を、第二項のビラにあつては当該候補者届出政党の名称を、第三項のビラにあつては当該衆議院名簿届出政党等の名称及び同項のビラである旨を表示する記号を、併せて記載しなければならない。
- 10 衆議院（小選挙区選出）議員又は参議院議員の選挙における公職の候補者は、政令で定めるところにより、政令で定める額の範囲内で、第一項第一号から第二号までの通常葉書及びビラを無料で作成することができる。この場合においては、第四百四十一条第七項ただし書の規定を準用する。
- 11 都道府県知事の選挙については都道府県は、市長の選挙については市は、それぞれ、前項の規定（参議院比例代表選出議員の選挙に係る部分を除く。）に準じて、条例で定めるところにより、公職の候補者の第一項第三号、第五号及び第六号のビラの作成につ

いて、無料とすることができる。

- 1 2 選挙運動のために使用する回覧板その他の文書図画又は看板（プラカードを含む。以下同じ。）の類を多数の者に回覧させることは、第一項から第四項までの頒布とみなす。ただし、第百四十三条第一項第二号に規定するものを同号に規定する自動車又は船舶に取り付けたままで回覧させること、及び公職の候補者（衆議院比例代表選出議員の選挙における候補者で当該選挙と同時に行為れる衆議院小選挙区選出議員の選挙における候補者である者以外のものを除く。）が同項第三号に規定するものを着用したままで回覧することは、この限りでない。
- 1 3 衆議院議員の総選挙については、衆議院の解散に関し、公職の候補者又は公職の候補者となろうとする者（公職にある者を含む。）の氏名又はこれらの者の氏名が類推されるような事項を表示して、郵便等又は電報により、選挙人にあいさつする行為は、第一項の禁止行為に該当するものとみなす。

（文書図画の掲示）

第143条 選挙運動のために使用する文書図画は、次の各号のいずれかに該当するもの（衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては、第一号、第二号、第四号及び第五号に該当するものであつて衆議院名簿届出政党等が使用するもの）のほかは、掲示することができない。

- 一 選挙事務所を表示するために、その場所において使用するポスター、立札、ちようちん及び看板の類
 - 二 第百四十一条の規定により選挙運動のために使用される自動車又は船舶に取り付けて使用するポスター、立札、ちようちん及び看板の類
 - 三 公職の候補者が使用するたすき、胸章及び腕章の類
 - 四 演説会場においてその演説会の開催中使用するポスター、立札、ちようちん及び看板の類
 - 四の二 個人演説会告知用ポスター（衆議院小選挙区選出議員、参議院選挙区選出議員又は都道府県知事の選挙の場合に限る。）
 - 五 前各号に掲げるものを除くほか、選挙運動のために使用するポスター（参議院比例代表選出議員の選挙にあつては、公職の候補者たる参議院名簿登載者が使用するものに限る。）
- 2 選挙運動のために、アドバルーン、ネオン・サイン又は電光による表示、スライドその他の方法による映写等の類を掲示する行為は、前項の禁止行為に該当するものとみなす。
 - 3 衆議院（小選挙区選出）議員、参議院（選挙区選出）議員又は都道府県知事の選挙については、第一項第四号の二の個人演説会告知用ポスター及び同項第五号の規定により選挙運動のために使用するポスター（衆議院小選挙区選出議員の選挙において候補者届出政党が使用するものを除く。）は、第百四十四条の二第一項の規定により設置されたポスターの掲示場ごとに公職の候補者一人につきそれぞれ一枚を限り掲示するほかは、掲示することができない。
 - 4 第百四十四条の二第八項の規定によりポスターの掲示場を設けることとした都道府県の議会の議員並びに市町村の議会の議員及び長の選挙については、第一項第五号の規定により選挙運動のために使用するポスターは、同条第八項の規定により設置されたポスターの掲示場ごとに公職の候補者一人につきそれぞれ一枚を限り掲示するほかは、掲示することができない。
 - 5 第一項第一号の規定により選挙事務所を表示するための文書図画は、第百二十九条の規定にかかわらず、選挙の当日においても、掲示することができる。

- 6 第一項第四号の二の個人演説会告知用ポスター及び同項第五号の規定により選挙運動のために使用するポスターは、第二百二十九条の規定にかかわらず、選挙の当日においても、掲示しておくことができる。
- 7 第一項第一号の規定により掲示することができるポスター、立札及び看板の類の数は、選挙事務所ごとに、通じて三をこえることができない。
- 8 第一項第四号の規定により掲示することができるポスター、立札及び看板の類の数は、演説会場外に掲示するものについては、会場ごとに、通じて二を超えることができない。
- 9 第一項に規定するポスター（同項第四号の二及び第五号のポスターを除く。）、立札及び看板の類は、縦二百七十三センチメートル、横七十三センチメートル（同項第一号のポスター、立札及び看板の類にあつては、縦三百五十センチメートル、横百センチメートル）をこえてはならない。
- 10 第一項の規定により掲示することができるちようちんの類は、それぞれ一箇とし、その大きさは、高さ八十五センチメートル、直径四十五センチメートルを超えてはならない。
- 11 第一項第四号の二の個人演説会告知用ポスターは、長さ四十二センチメートル、巾十センチメートルをこえてはならない。
- 12 前項のポスターは、第一項第五号のポスターと合わせて作成し、掲示することができる。
- 13 第一項第四号の二の個人演説会告知用ポスターには、その表面に掲示責任者の氏名及び住所を記載しなければならない。
- 14 衆議院（小選挙区選出）議員又は参議院議員の選挙においては、公職の候補者は、政令で定めるところにより、政令で定める額の範囲内で、第一項第一号及び第二号の立札及び看板の類、同項第四号の二の個人演説会告知用ポスター（衆議院小選挙区選出議員又は参議院選挙区選出議員の選挙の場合に限る。）並びに同項第五号のポスターを無料で作成することができる。この場合においては、第四百一条第七項ただし書の規定を準用する。
- 15 都道府県の議会の議員及び長の選挙については都道府県は、市の議会の議員及び長の選挙については市は、それぞれ、前項の規定（参議院比例代表選出議員の選挙に係る部分を除く。）に準じて、条例で定めるところにより、公職の候補者の第一項第四号の二の個人演説会告知用ポスター（都道府県知事の選挙の場合に限る。）及び同項第五号のポスターの作成について、無料とすることができる。
- 16 公職の候補者又は公職の候補者となろうとする者（公職にある者を含む。以下この項において「公職の候補者等」という。）の政治活動のために使用される当該公職の候補者等の氏名又は当該公職の候補者等の氏名が類推されるような事項を表示する文書図画及び第九十九条の五第一項に規定する後援団体（以下この項において「後援団体」という。）の政治活動のために使用される当該後援団体の名称を表示する文書図画で、次に掲げるもの以外のものを掲示する行為は、第一項の禁止行為に該当するものとみなす。
 - 一 立札及び看板の類で、公職の候補者等一人につき又は同一の公職の候補者等に係る後援団体のすべてを通じて政令で定める総数の範囲内で、かつ、当該公職の候補者等又は当該後援団体が政治活動のために使用する事務所ごとにその場所において通じて二を限り、掲示されるもの
 - 二 ポスターで、当該ポスターを掲示するためのベニヤ板、プラスチック板その他これらに類するものを用いて掲示されるもの以外のもの（公職の候補者等若しくは後援団体の政治活動のために使用する事務所若しくは連絡所を表示し、又は後援団体の構成

員であることを表示するために掲示されるもの及び第十九項各号の区分による当該選挙ごとの一定期間内に当該選挙区（選挙区がないときは、選挙の行われる区域）内に掲示されるものを除く。）

三 政治活動のためにする演説会、講演会、研修会その他これらに類する集会（以下この号において「演説会等」という。）の会場において当該演説会等の開催中使用されるもの

四 第十四章の三の規定により使用することができるもの

17 前項第一号の立札及び看板の類は、縦百五十センチメートル、横四十センチメートルを超えないものであり、かつ、当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会（衆議院比例代表選出議員又は参議院比例代表選出議員の選挙については、中央選挙管理会）の定めるところの表示をしたものでなければならない。

18 第十六項第二号のポスターには、その表面に掲示責任者及び印刷者の氏名（法人にあつては名称）及び住所を記載しなければならない。

19 第十六項において「一定期間」とは、次の各号に定める期間とする。

一 衆議院議員の総選挙にあつては、衆議院議員の任期満了の日の六月前の日から当該総選挙の期日までの間又は衆議院の解散の日の翌日から当該総選挙の期日までの間

二 参議院議員の通常選挙にあつては、参議院議員の任期満了の日の六月前の日から当該通常選挙の期日までの間

三 地方公共団体の議会の議員又は長の任期満了による選挙にあつては、その任期満了の日の六月前の日から当該選挙の期日までの間

四 衆議院議員又は参議院議員の再選挙（統一対象再選挙（第三十三条の二第三項から第五項までの規定によるものを除く。次号において同じ。）を除く。）又は補欠選挙（同条第三項から第五項までの規定によるものに限る。）にあつては、当該選挙を行うべき事由が生じたとき（同条第七項の規定の適用がある場合には、同項の規定により読み替えて適用される同条第一項又は第三項から第五項までに規定する遅い方の事由が生じたとき）その旨を当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会（衆議院比例代表選出議員又は参議院比例代表選出議員の選挙については、中央選挙管理会）が告示した日の翌日から当該選挙の期日までの間

五 衆議院議員又は参議院議員の統一対象再選挙又は補欠選挙（第三十三条の二第三項から第五項までの規定によるものを除く。）にあつては、当該選挙を行うべき事由が生じたとき（同条第七項の規定の適用がある場合には、同項の規定により読み替えて適用される同条第二項に規定する遅い方の事由が生じたとき）その旨を当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会（衆議院比例代表選出議員又は参議院比例代表選出議員の選挙については、中央選挙管理会）が告示した日の翌日又は当該選挙を行うべき期日の六月前の日いずれか遅い日から当該選挙の期日までの間

六 地方公共団体の議会の議員又は長の選挙のうち任期満了による選挙以外の選挙にあつては、当該選挙を行うべき事由が生じたとき（第三十四条第四項の規定の適用がある場合には、同項の規定により読み替えて適用される同条第一項に規定する最も遅い事由が生じたとき）その旨を当該選挙に関する事務を管理する選挙管理委員会が告示した日の翌日から当該選挙の期日までの間

（文書図画の頒布又は掲示につき禁止を免れる行為の制限）

第146条 何人も、選挙運動の期間中は、著述、演芸等の広告その他いかなる名義をもつてするを問わず、第四百十二条又は第四百三条の禁止を免れる行為として、公職の候補者の氏名若しくはシンボル・マーク、政党その他の政治団体の名称又は公職の候補者を推薦し、支持し若しくは反対する者の名を表示する文書図画を頒布し又は掲示する

ことができない。

- 2 前項の規定の適用については、選挙運動の期間中、公職の候補者の氏名、政党その他の政治団体の名称又は公職の候補者の推薦届出者その他選挙運動に従事する者若しくは公職の候補者と同一戸籍内に在る者の氏名を表示した年賀状、寒中見舞状、暑中見舞状その他これに類似する挨拶状を当該公職の候補者の選挙区（選挙区がないときはその区域）内に頒布し又は掲示する行為は、第百四十二条又は第百四十三条の禁止を免れる行為とみなす。

（新聞紙、雑誌の報道及び評論等の自由）

第148条 この法律に定めるところの選挙運動の制限に関する規定（第百三十八条の三の規定を除く。）は、新聞紙（これに類する通信類を含む。以下同じ。）又は雑誌が、選挙に関し、報道及び評論を掲載するの自由を妨げるものではない。但し、虚偽の事項を記載し又は事実を歪曲して記載する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。

- 2 新聞紙又は雑誌の販売を業とする者は、前項に規定する新聞紙又は雑誌を、通常の方法（選挙運動の期間中及び選挙の当日において、定期購読者以外の者に対して頒布する新聞紙又は雑誌については、有償である場合に限る。）で頒布し又は都道府県の選挙管理委員会の指定する場所に掲示することができる。

- 3 前二項の規定の適用について新聞紙又は雑誌とは、選挙運動の期間中及び選挙の当日に限り、次に掲げるものをいう。ただし、点字新聞紙については、第一号口の規定（同号ハ及び第二号中第一号口に係る部分を含む。）は、適用しない。

一 次の条件を具備する新聞紙又は雑誌

イ 新聞紙にあつては毎月三回以上、雑誌にあつては毎月一回以上、号を逐つて定期に有償頒布するものであること。

ロ 第三種郵便物の承認のあるものであること。

ハ 当該選挙の選挙期日の公示又は告示の日前一年（時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙にあつては、六月）以来、イ及びロに該当し、引き続き発行するものであること。

二 前号に該当する新聞紙又は雑誌を発行する者が発行する新聞紙又は雑誌で同号イ及びロの条件を具備するもの

（選挙運動放送の制限）

第151条の5 何人も、この法律に規定する場合を除く外、放送設備（広告放送設備、共同聴取用放送設備その他の有線電気通信設備を含む。）を使用して、選挙運動のために放送をし又は放送をさせることができない。

（選挙の自由妨害罪）

第225条 選挙に関し、次の各号に掲げる行為をした者は、四年以下の懲役若しくは禁錮（こ）又は百万円以下の罰金に処する。

一 選挙人、公職の候補者、公職の候補者となろうとする者、選挙運動者又は当選人に対し暴行若しくは威力を加え又はこれをかどわかしたとき。

二 交通若しくは集会の便を妨げ、演説を妨害し、又は文書図画を毀（き）棄し、その他偽計詐術等不正の方法をもつて選挙の自由を妨害したとき。

三 選挙人、公職の候補者、公職の候補者となろうとする者、選挙運動者若しくは当選人又はその関係のある社寺、学校、会社、組合、市町村等に対する用水、小作、債権、寄附その他特殊の利害関係を利用して選挙人、公職の候補者、公職の候補者となろうとする者、選挙運動者又は当選人を威迫したとき。

（多衆の選挙妨害罪）

第230条 多衆集合して第二百五条第一号又は前条の罪を犯した者は、次の区別に従つて処断する。選挙に関し、多衆集合して、交通若しくは集会の便を妨げ、又は演説を妨害した者も、同様とする。

- 一 首謀者は、一年以上七年以下の懲役又は禁錮（こ）に処する。
- 二 他人を指揮し又は他人に率先して勢を助けた者は、六月以上五年以下の懲役又は禁錮（こ）に処する。
- 三 付和随行した者は、二十万円以下の罰金又は科料に処する。

2 前項の罪を犯すため多衆集合し当該公務員から解散の命令を受けることが三回以上に及んでもなお解散しないときは、首謀者は、二年以下の禁錮（こ）に処し、その他の者は、二十万円以下の罰金又は科料に処する。

（事前運動、教育者の地位利用、戸別訪問等の制限違反）

第239条 次の各号の一に該当する者は、一年以下の禁錮（こ）又は三十万円以下の罰金に処する。

- 一 第二百二十九条、第三百三十七条、第三百三十七条の二又は第三百三十七条の三の規定に違反して選挙運動をした者
- 二 第三百三十四条の規定による命令に従わない者
- 三 第三百三十八条の規定に違反して戸別訪問をした者
- 四 第三百三十八条の二の規定に違反して署名運動をした者

2 候補者届出政党、衆議院名簿届出政党等又は参議院名簿届出政党等が第三百三十四条の規定による命令に違反して選挙事務所を閉鎖しなかつたときは、当該候補者届出政党、衆議院名簿届出政党等又は参議院名簿届出政党等の役職員又は構成員として当該違反行為をした者は、一年以下の禁錮（こ）又は三十万円以下の罰金に処する。

（公務員等の選挙運動等の制限違反）

第239条の2 国又は地方公共団体の公務員、特定独立行政法人又は特定地方独立行政法人の役員又は職員及び公庫の役職員（公職にある者を除く。）であつて、衆議院議員又は参議院議員の選挙において当該公職の候補者となろうとするもので次の各号に掲げる行為をしたものは、第二百二十九条の規定に違反して選挙運動をした者とみなし、二年以下の禁錮（こ）又は三十万円以下の罰金に処する。

- 一 当該公職の候補者となろうとする選挙区（選挙区がないときは、選挙の行われる区域。以下この項において「当該選挙区」という。）において職務上の旅行又は職務上出席した会議その他の集会の機会を利用して、当該選挙に関し、選挙人にあいさつすること。
- 二 当該選挙区において、その地位及び氏名（これらのものが類推されるような名称を含む。）を表示した文書図画を当該選挙に関し、掲示し、又は頒布すること。
- 三 その職務の執行に当たり、当該選挙区内にある者に対し、当該選挙に関し、その者に係る特別の利益を供与し、又は供与することを約束すること。
- 四 その地位を利用して、当該選挙に関し、国又は地方公共団体の公務員、特定独立行政法人又は特定地方独立行政法人の役員又は職員及び公庫の役職員をして、その職務の執行に当たり、当該選挙区内にある者に対し、その者に係る特別の利益を供与させ、又は供与することを約束させること。

2 第三百三十六条の二の規定に違反して選挙運動又は行為をした者は、二年以下の禁錮（こ）又は三十万円以下の罰金に処する。

【参考資料 1】

平成 22 年中に任期満了となる市町村の長及び議会議員

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
区別														
市	市長			北斗市 (22.3.4) 留萌市 (22.3.9)	帯広市 (22.4.20) 名寄市 (22.4.22)	富良野市 (22.5.14)		苫小牧市 (22.7.8)		根室市 (22.9.28)	岩見沢市 (22.10.19)	旭川市 (22.11.16) 網走市 (22.11.30)		10
	議員				北見市 (22.4.8) 士別市 (22.4.30)				紋別市 (22.8.7)					3
町村	町 村 長	比布町 (22.1.14) 和寒町 (22.1.23)	豊浦町 (22.2.22)	神恵内村 (22.3.16)	日高町 (22.4.8) 栗山町 (22.4.11) 枝幸町 (22.4.15) 七飯町 (22.4.16) 上砂川町 (22.4.22) 大空町 (22.4.22) 洞爺湖町 (22.4.22) 安平町 (22.4.22) むかわ町 (22.4.22) 新ひだか町 (22.4.22) 浜頓別町 (22.4.26)		上ノ国町 (22.6.4)	芽室町 (22.7.18) 長万部町 (22.7.22)	江差町 (22.8.7)		標茶町 (22.10.21)	小平町 (22.11.8) 釧路町 (22.11.13) 羽幌町 (22.11.29)	士幌町 (22.12.4) 奈井江町 (22.12.6) 幌延町 (22.12.13) 津別町 (22.12.22)	27
	議員				日高町 (22.4.8) 枝幸町 (22.4.15) 大空町 (22.4.22) 安平町 (22.4.22) むかわ町 (22.4.22) 新ひだか町 (22.4.22)				本別町 (22.8.9)		利尻町 (22.10.7)			8
合	長	2	1	3	13	1	1	3	1	1	2	5	4	37
	議員	0	0	0	8	0	0	0	2	0	1	0	0	11
計	計	2	1	3	21	1	1	3	3	1	3	5	4	48

注1：（ ）内は任期満了日

【参考資料2】

道内市町村の長及び議会議員の任期満了年月日一覧

平成22年7月26日現在

【北海道】

市町村名	市町村長	議会議員	市町村名	市町村長	議会議員	市町村名	市町村長	議会議員	市町村名	市町村長	議会議員	市町村名	市町村長	議会議員	市町村名	市町村長	議会議員
札幌市	23. 6. 7	23. 5. 1	月形町	24.10. 2	23. 4.30	(日高振興局)	和寒町	26. 1.23	23. 4.30	(十勝総合振興局)	音更町	25. 4. 9	23. 4.30	北海道	23. 4.22	23. 4.29	
函館市	23. 4.26	23. 5. 1	浦臼町	24. 4.30	23. 4.26	日高町	26. 4. 8	26. 4. 8	剣淵町	25.12.18	25.12.14	音更町	25. 4. 9	23. 4.30			
小樽市	23. 4.29	23. 4.30	新十津川町	23. 4.30	23. 4.30	平取町	24. 7. 2	23. 4.30	下川町	23. 4.30	23. 4.30	士幌町	22.12. 4	23. 4.30			
旭川市	22.11.16	23. 5. 1	妹背牛町	25.12. 2	23. 9.22	新冠町	25. 4.30	23. 4.30	美深町	23. 4.27	23. 4.30	上士幌町	25. 3.24	23. 4.30	衆議院議員		25. 8.29
室蘭市	23. 4.30	23. 4.30	秩父別町	23. 3.25	23. 3.30	浦河町	25.12.23	23. 4.30	音威子府村	23. 4.30	23. 4.30	鹿追町	23. 4.30	23. 4.30			
釧路市	24.11. 1	23. 4.30	雨竜町	23. 4.26	23. 4.26	様似町	25.10.10	23. 4.30	中川町	23. 4.30	23. 4.30	新得町	25. 8. 2	23. 4.30			
帯広市	26. 4.20	23. 4.30	北竜町	24. 2.21	23. 3.30	えりも町	25. 5.31	23. 4.30				清水町	25. 2.27	23. 1.26	参議院議員		25. 7.28
北見市	24.12.20	26. 4. 8	沼田町	23. 4.30	23. 4.30	新ひだか町	26. 4.22	26. 4.22	(留萌振興局)			芽室町	26. 7.18	23. 4.30			28. 7.25
夕張市	23. 4.26	23. 4.30							増毛町	23. 2.12	23. 4.30	中札内村	25. 6.29	23. 4.30			
岩見沢市	22.10.19	23. 4.30	(石狩振興局)			(渡島総合振興局)			小平町	22.11. 8	23. 4.30	更別村	23. 4.26	23. 4.30			
網走市	22.11.30	23. 4.30	当別町	25. 8. 1	23. 4.30	松前町	24. 4.10	23. 6.30	苫前町	23. 4.30	23. 4.30	大樹町	23. 4.30	23. 4.30			
留萌市	26. 3. 9	23. 4.30	新篠津村	25. 7. 9	23. 4.30	福島町	23. 1.19	23. 8.31	羽幌町	22.11.29	23. 4.30	広尾町	24. 4.29	24. 4.29			
苫小牧市	26. 7. 8	23. 4.30				知内町	23. 2.14	24. 4. 8	初山別村	23. 4.30	23. 4.30	幕別町	23. 4.30	23. 4.30			
稚内市	23. 4.30	23. 4.30	(後志総合振興局)			木古内町	24. 4.25	23. 4.30	遠別町	24.10.21	23. 4.30	池田町	24.10.30	23. 4.30			
美唄市	24. 9.30	23. 4.30	島牧村	23. 8.22	25. 9.29	七飯町	26. 4.16	23. 4.30	天塩町	23. 4.30	23. 4.30	豊頃町	25. 4.22	23. 4.30			
芦別市	23. 4.30	23. 4.30	寿都町	25.11.17	23.10.19	鹿部町	25. 2.19	25. 2.19				本別町	25. 9.22	22. 8. 9			
江別市	23. 4.30	23. 4.30	黒松内町	25. 1.23	23.10.31	森町	24.10.18	23. 4.22	(宗谷総合振興局)			足寄町	23. 4.30	23. 4.30			
赤平市	23. 4.30	23. 4.30	蘭越町	24.11.12	23. 5. 1	八雲町	25.10.22	25.10.22	幌延町	22.12.13	23. 4.30	陸別町	23. 4.30	23. 4.30			
紋別市	25. 6.29	22. 8. 7	二セコ町	25.10. 8	23. 4.30	長万部町	26. 7.22	23. 4.30	猿払村	25.12. 2	23. 4.30	浦幌町	23. 4.30	23. 4.30			
士別市	25. 9.24	26. 4.30	真狩村	24.11.26	23. 4.30				浜頓別町	26. 4.26	23. 4.30						
名寄市	26. 4.22	23. 4.30	留寿都村	25. 4. 3	23. 4.30	(檜山振興局)			中頓別町	23. 4.30	23. 4.30	(釧路総合振興局)					
三笠市	23. 4.30	23. 4.30	喜茂別町	24. 7.21	23. 4.30	江差町	22. 8. 7	23. 8.10	枝幸町	26. 4.15	26. 4.15	釧路町	22.11.13	23.10.31			
根室市	22. 9.28	25. 9.14	京極町	23. 4.30	23. 4.30	上ノ国町	26. 6. 4	23. 4.30	豊富町	23. 4.30	23. 4.30	厚岸町	25. 7.12	23. 4.30			
千歳市	23. 4.26	25. 6.19	倶知安町	23. 1.27	23. 4.30	厚沢部町	23. 4.26	23. 4.30	礼文町	25. 7. 2	25. 8. 5	浜中町	25. 1. 9	23. 4.30			
滝川市	23. 4.26	23. 4.29	共和町	25. 5.24	23.11.30	乙部町	23. 4.30	23. 4.30	利尻町	25. 5.25	22.10. 7	標茶町	22.10.21	23. 4.30			
砂川市	23. 4.26	23. 4.30	岩内町	23.10. 8	23. 4.29	奥尻町	25. 3.17	23. 4.30	利尻富士町	25.11.24	25.11. 5	弟子屈町	24.12.23	24.11.11			
歌志内市	24.10.25	23. 4.30	泊村	24. 1.19	23. 4.30	今金町	23. 4.30	23. 4.30				鶴居村	24. 5.19	23. 4.30			
深川市	23. 1.20	23. 6.17	神恵内村	26. 3.16	23. 4.30	せたな町	25.10. 1	23. 4.30	(オホーツク総合振興局)			白糠町	24. 6.10	23. 4.30			
富良野市	26. 5.14	23. 4.30	積丹町	24. 6.15	25. 9.29				美幌町	23. 4.30	23. 4.30						
登別市	24. 8.27	23. 4.30	古平町	25. 5.19	23. 4.30	(上川総合振興局)			津別町	22.12.22	25. 2.28	(根室振興局)					
恵庭市	25.11.25	23. 4.30	仁木町	25. 5.12	23. 8. 9	幌加内町	25.11.27	23. 4.30	斜里町	23. 4.30	23. 4.30	別海町	23. 4.27	23. 4.30			
伊達市	23. 4.30	23. 4.30	余市町	23. 8.18	23. 8.18	鷹栖町	24.11. 4	23. 5. 1	清里町	23. 4.30	23. 4.30	中標津町	24. 9.29	24. 9. 2			
北広島市	25. 7.22	23. 4.30	赤井川村	23. 4.26	23. 5.21	東神楽町	24. 2.27	23. 4.30	小清水町	25. 8.24	23. 4.30	標津町	25. 6.23	23. 4.30			
石狩市	23. 6.26	23. 5.19				当麻町	24. 2. 1	23. 4.30	訓子府町	23. 4.30	23. 4.30	羅臼町	23. 4.26	23. 4.30			
北斗市	26. 3. 4	23. 4.30	(胆振総合振興局)			比布町	26. 1.14	23. 4.30	置戸町	24. 6. 9	23. 4.30						
(空知総合振興局)			豊浦町	26. 2.22	24.11.14	愛別町	25. 4.26	23. 4.30	佐呂間町	24. 9.11	25. 9.29						
			壮瞥町	23. 4.30	23. 4.30	上川町	24. 4. 5	24. 4.24	遠軽町	25.10.22	25.10.22						
南幌町	25. 1.22	23. 4.26	白老町	23.11. 8	23.11. 8	東川町	23. 3.30	23. 3.30	湧別町	25.11.14	25.11.14						
奈井江町	22.12. 6	23. 4.30	厚真町	24. 7. 7	23. 4.30	美瑛町	23. 4.30	23. 4.30	滝上町	23. 4.30	23. 4.30						
上砂川町	26. 4.22	25. 2.18	洞爺湖町	26. 4.22	23. 4.30	上富良野町	24.12.26	23. 8.24	興部町	23. 4.30	23. 4.30						
由仁町	23. 4.30	23. 4.30	安平町	26. 4.22	26. 4.22	中富良野町	23. 9.22	25. 5. 8	西興部村	23. 1.31	23. 4.30						
長沼町	24. 8.23	23. 3.30	むかわ町	26. 4.22	26. 4.22	南富良野町	24. 4.29	23. 4.30	雄武町	23. 9.30	23. 4.30						
栗山町	26. 4.11	23. 4.30				占冠村	25. 9. 5	23. 4.30	大空町	26. 4.22	26. 4.22						